

## 新島基金による

### 外国人留学研修生について

同志社創立百周年記念事業の一環として記念事業寄付金を基金として新島基金が設定されました。

#### ○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育・研究の国際交流を推進し、もって一国の良心たりうる人材の育成に資することを目的としております。

この目的を達成するために新島基金の果実によって(1)新島講座の開設 (2)新たな奨学制度の開設 (3)教育・研究の国際交流の推進などを行うことになっております。

#### ○外国人留学研修生

新島基金による事業の一つとして外国人留学研修生の受入れ制度が設定されました。

この第一回留学研修生として、凌 文幹 (Jing Wen-Chuan) 氏が本年一月六日に来日されました。

同氏は、本学大学院文学研究科博士課程(前期)心理学専攻

#### 凌 文幹氏の主な経歴

一九四一年一月二九日生

北京大学、中国科学院心理研究所研究生を経て、中国科学院院部および心理研究所研究員。

北京の留守宅には、北京大学の後輩で中国科学院心理研究所研究員である夫人と二児がある。

において、浜 治世教授を指導教授として二年間研究に励まれる予定です。

#### ごあいさし

凌 文幹

私はこのたび、日本のもっとも美しい古都——京都に参りますことができましたことは皆様の絶大な御支援と中日人民の熱情溢れるたまものと存じます。今日は皆様方の心からなるお迎えを受け、感激の至りに存じます。ここに、感謝の詞を述べさせていただきます。

いま、このような熱情のこもった歓迎を受けましたことは、ただ私のみに対してではなく、中国人民全体に対する友好の表明と信じてやみません。

ここで、私は上野総長をはじめ、松山学長、木村文学部長、浜教授及び皆様方に中国心理学会理事長、中国科学院心理研究所所長潘菽先生、副所長徐聯倉先生及び研究所全体職員が私に依頼された心からなる御機嫌伺いをさせていただきます。

中日両国は地理的には、一衣帯水の隣国です。中国人民と日本人とは二千年あまりの友好往来の悠久なる歴史をもっております。このたび、私が栄光ある同志社大学に留学することができましたことは中日友好の歴史の継続にはかならないと確信致します。

一九七九年、松山学長並びに浜先生は私どもの研究所の代表者を同志社大学の主催する人格心理学国際会議へ参加するようおまねき下さいました。しかし色々の事情がありまして、そのことは実現しませんでした。

その時恰度私は日本へ留学しようと思い、関係当局に連絡をしていたところでした。日本心理学会は、私に慶応大学を推薦されました。ですが、私は幸に浜先生とお会いしてから同志社大学へ留学したいという意志を固めました。その原因は二つありました。

第一には、同志社大学は日中両国の心理学界の友好往来の開拓者であるからです。私は、同志社大学が日中友好と日中両国の心理学者の学術交流のために積極的な御尽力をなさっておられたことに、深く心を打たれました。それゆえ、私は同志社大学に対して身じかな親しさを感じたのです。

紹介 私はこの友好の初めての使者として、同志社大学へ留学することを決心いたしました次第でございます。私のこの願いを実現できるよう

おちからぞえをたまわりました同志社総長上野先生、学長松山先生、文学部長木村先生、浜先生、木村課長などの諸先生方が御援助下さいましたことに対して心からなる感謝の詞を述べたいと存じます。

第二の理由は、同志社大学は日本全国において有名な学府の一つであるからです。同志社は百年にあまる輝かしい歴史を持ち、そのうえ、すばらしい学風があり、心理学研究室も日本ではすぐれた心理学研究機関です。私はこの学府のなかにあつて勉強することができすことに大きな希望と喜びを感じております。

いま、私は「同志社」の一員になったという誇りをもっております。中国では「同志」ということばは親しい間柄を表現することばと認められています。私は諸先生方をはじめ皆様方が今日から私を同志社の一員と見なしていることを切望してやみません。私が今後、同志社で学び、将来中国の心理学界に貢献できれば幸甚の至りだと存じるとともに、これはまた同志社の光栄であり、諸先生方の誇りでもあることと信じます。

最後に、もう一度同志社の皆様の熱情溢れる御援助と御歓迎に対してこころからなるつきせぬ感謝の意を述べて、私の挨拶の詞とさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(来学歓迎会での挨拶より)